

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行  
財 第五福竜丸平和協会  
〒136-0081 東京都江東区  
夢の島3-2  
都立第五福竜丸展示館内  
電話 03-3521-8494

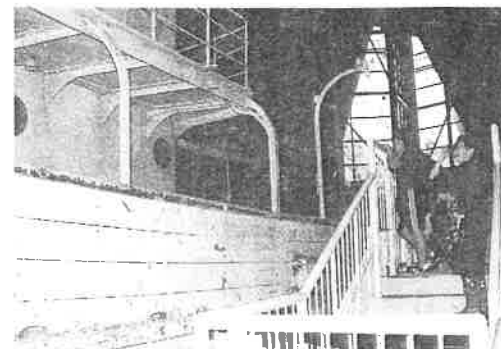
十一月一日に、新装成った第五福竜丸展示館がオープンした。七月から十月までの休館期間中に船体の修理と建物の改修工事が行われた。外観は改修前とあまり変わらないが、館内に入ると、まず、展望デッキがメートルほどかさ上げされており、これまでよりも船に近づいて、甲板上を隅なく見渡せるようになった。また、船首前面の仮ごしらえの事務室が撤去され、船体脇に配置されていた展示物類も大方とり払われたため、船の船首、船尾、左舷の三方向にスペースがで、デッキと反対側の床面でも船全体を横から左右・上下とも一望に収められるようになり、船首側と船尾側からは縦方向に船を見通せるようになった。第五福竜丸展示館は、水爆出現以降の核実験被害をとりあげた世界でも類まれなミュージアムであり、水爆被災

## 見つめ、手で触れ、心に刻み、ともに未来へ 航海を続ける展示館に——新装開館にあたって

川崎 昭一郎

船の実物が丸ごと保存、展示されている。米ロ国内を含め世界の核実験被害と被害者の実態が明らかにされ、問題の重要性がひろく認識されてきているなかで、第五福竜丸展示館の存在は日本の被害、被害者にとどまらず、全世界にひろがった意義を持つようになっている。第五福竜丸展示館は多くの人々の熱意と献身によって設立され、維持されてきた。三十年前の新聞投書「沈めてよいか第五福竜丸」やNHKドキュメンタリー「廃船」を含め、第五福竜丸を忘れさせまいとする様々な創意ある努力を思い浮かべながら、とりわけ最近の第五福竜丸エンジン引き揚げとエンジン夢の島の船体のそばにとどける市民運動のたかまりに改めて感動を覚えるものである。最近の教育論議では、社会の幅広い

教育機能を活性化していくことや、子供たちに自然と社会の現実に触れる実際の体験が必要だと強調されている。当展示館への団体見学者には中学生・高校生が多く、社会教育面で果たす役割は今後ますます大きくなる。厳しい財政事情のなかで東京都により建物の改修がなされ、船がよりよく眺められるようになったこの機会に、船をいっそう引き立たせ、来館者に基本的でアップ・ツー・デートな情報提供を行い、子供たちには自ら考え自ら学ぶ場となるように、ソフト面での充実・工夫を私たち自身の力でぜひとも行いたいと考えている。現在進められている展示パネルの一新・充実のための募金への協力を切に願う所である。人類と核兵器は共存できない。二十一世紀は核兵器のない世紀としなければならない。第五福竜丸を見つめ、手で触れ、心に刻み、ピキニ水爆実験のため放射能症となった乗組員の立場に立つてその苦しみと怒りを理解し、船とともに原水爆のない未来への航海をこれからも皆さんに続けてほしい。(第五福竜丸平和協会会長)



新しく作られた船の階段

## 船がよく見えると歓声——展示館新装なって開館

「すごいな、早く上がってきて、船の中がよく見えるよ」——こどもたちの明るい声が館内にこだまします。第五福竜丸展示館は、十一月一日、夏以来四ヶ月の長い休館を経て工事が完了し新装開館しました。一九七六年の開館以来二十二年、すっかり痛んだ外壁のコーテン鋼材を一枚一枚張り替え、天井からしみ込み船の甲板や床にたくさんの雨だれを作った雨漏りを新鋼材でふさぎ、劣化した支柱やコンクリートを補強、沈下激しい床を可

能なかり平坦にし、シートを張り替え、壁面を白く塗り替え、剥げ落ちる船体のペンキをぬり、痛んだマストを補強し、照明を増やし、空調を取り替え……と、多岐にわたった難工事の連続でした。工事は展示館に新しい生命力をふきこみ、館内も船体もきれいな以前より広々として明るい雰囲気生まれ変わりました。中でも、子供たちの視線から十分に船が観察できなかった船の内室も、二階のデッキ横に船にぎり

## 第五福竜丸保存のために

十月末、新装開館準備中の展示館を杉並区の菅原健一さんご家族が訪れ、故人の生涯の願いでしたと、核兵器禁止、第五福竜丸保存のために、二〇万円の寄付をされました。菅原健一さんは、第五福竜丸被災の時東京杉並区の魚屋さんでしたが、妻のトミ子さんとともに、築地仲買人・魚商組合の署名運動、水爆禁止杉並協議会の署名運動の先頭に立って活躍されました。以後魚屋さんを営みながら、原水爆禁止運動、民主医療運動に活躍され、協会の賛助会員として、保存

ぎり近付けて一mほど高い階段と踊り場をもうけることにより、よく見下ろせるようになりました。「ここがまぐろをいれたところ」「みんなが寝ていた船室だ」「ここに死の灰が降ったんだ」など声が聞こえるほど、船がよく見える」と好評です。二階部分からは展示物を全て取り、椅子だけを置いたり、元事務室のあったところも空間として残したりと、ゆっくり、船を見つめ、多岐にわたった工事のため多

## 協合理事会開く

十月一日、平和協会第一三八八理事會が東京の学士会館で開かれ、九八年度後半期の活動について審議しました。展示館の改修工事が完了にそい、新しい決意と展望をもって展示館活動の強化をはかること、とりわけ展示内容の一新と充実をはかることとし、十一月から五百万円目標で特別募金活動を起こすことを決定しました。また展示館の運営体制を強め、担当の理事をもうけ定例の会合を持ち企画立案をはかること、展示館の新しいパンフレットの発行を急ぐこと、第五福竜丸エンジンの船体との再会の促進、三・一ピキニ事件記念集会和関連行事の開催などを決めました。

## 中学校の生徒会からも募金

今年六月、修学旅行で展示館を訪れ、船を見つめながら聞いた杉末廣さんのエンジン引き揚げの話や歌手の橋本のぶ代さんのうたごえに感動、エンジンと船の再会を心待ちにした三重県多気郡の大台中学校から、十月末、生徒会での後ずつと続けた募金活動で集まったと四万二七一円が「第五福竜丸のために役立てて」と届けられました。



第五福竜丸の海図を見つめる (右は杉末廣氏)

第五福竜丸の「海図」が、船のエンジンの引き揚げに尽力した杉末廣氏の手を通じて、十一月一日展示館に寄贈されました。「海図」は、三重県伊勢市船江町の奥村一郎氏が大切に保管していたもので、エンジンと船との再会を機会に展示館に送りたいと願っていたもの。エンジンの展示が修理に長時間かかり来年の夏以降という新しい事態のなか、一足早く船と一体にさせたいと、この日杉さんに思いを託し、海図発見にいたる手記(別項)とともに展示

### 第五福竜丸の「海図」船にもどる

館に手渡されました。

「海図」は、第五福竜丸に改名される前の第七事代丸当時から使われていたもので、第五福竜丸が伊勢の強力造船所で、はやぶさ丸に改造されたとき、奥村さんが知人からもらい受けたもの。関係者の証言によって事件当時船に積み

### 私の手元に第五福竜丸の海図があるわけ 奥村一郎

昭和二十四年松阪工業学校化学科を卒業したものの、家業の八百屋を継いで伊勢市大湊町の方へ行商に回っていました。昭和三十一年の或る頃、得意先の強力造船所へ行ったところ、第五福竜丸が船名をアソペラで釘打ちで隠蔽し、ひそかにドック入りしており、そして改装のため、甲板上の操舵室・船室内の備品類すべてを取払い、同造船所隣の銭湯の燃料置場の空き地へ燃料にするために運んでおりました。

私も若い頃より珍品奇品蒐集の趣味がありましたので、銭湯の主人に「記念に何か貰えないか」と言うと言は「何を持っていくのかまわんが、ビキニで死の灰をかぶった船の物だから、どうなっ

達まれていたものと証明されました。海上保安庁の作成になるもので縦七五㎝、横一〇〇㎝、全部で十枚あり、今回はその三枚が寄贈され、うち一枚の裏面には大きく「第七事代丸」の文字が墨書されています。長い年月を感じさせるように全体が茶色っぽく変色し、一部薄くなった所もありますが繊細な線図

### 第五福竜丸とビキニ事件への想い

#### 竹内 郁夫

第五福竜丸展示館を私が初めて訪れたのは、一九八九年の一月、東京労働学校の仲間たちと、平和を考える焼津・東富士ツアーの事前学習を兼ねてでした。労働学校は、昼間の仕事を終えた人たちが夜集まって、哲学や経済学、階級闘争論といった社会科学の基礎理論や情勢問題などを講師から話を聞き、班討論や交流を重ねながら自主的に学ぶところです。戦前からの歴史があり、疲れて眠い目をこすりながら社会のしくみ、人類の解放、生きがいや働きがいについてなど真剣に考え、議論し、学んだことを職場や地域を良くしていくために生かそうと健気に頑張っている受講生の姿は感動的で、山田洋次監督の「学校」シリーズでもいつか取りあげてもらえたらと思っています。テーマは環境・公

害・農業・原発・ローカル線・産業空洞化・平和問題などさまざまな分野に及び、焼津は第五福竜丸の母港であり、原水爆禁止運動の発祥の地ということで五回ほど訪れ、ビキニ・デー集会に参加したり、久保山かずさんや飯塚利弘先生(焼津市平和委員会理事長)を囲んで、平和を考える集いを企画するなど積極的にとりくんできました。

すずさんから愛吉さんが亡くなって支給された補償金をめぐって、ねたまれたり、心ない仕打ちをされても、娘さんたち三人と共に歯をくいしばって生き抜き、愛吉さんの遺志をついで原水禁運動に身を投じていくお話は、参加者の涙と感動をあふれさせずにはおさまませんでした。この逸話は飯塚先生の著書『死の灰を越えて』の中で紹介されています。私たちは来年二月末にも焼津を訪れる予定です。ゴミの山の中で朽ち果てようとしていた第五福竜丸を救い、守り通し、よみがえらせた多くの方々

の善意と保存運動があつてこそ歴史の真実を伝え、平和学習のかけがえのない生きた教材である船を私たちが見学できることに喜びと感謝の気持ちをおさげます。みんなの願いにこたえ、第五福竜丸展示館を建設してくれた美濃部革新都政の功績も忘れることはできません。

この小さな木造船で太平洋の大海原に出漁して行ったなんて、にわかには信じられませんでした。

展示品もたいへん貴重な当時の資料や図解・写真など、じっくり見て行くとても勉強になります。職員の方には、たびたび解説をお願いし、お世話になっていますが、今年の十一月一日にも伺いご説明していただきました。「この船にしみこんでいる目に見えない放射能と船を守った人たちの想いも感じとってほしい」「この第五福竜丸事件のもつ世界的意味は、核開発競争の行くつく先を啓示したことである」といったお話しに、重みを感じました。第五福竜丸以外にも八百隻以上が、周辺の海域で操業していたわけですから、一つの船に二十人乗っていたとしても一万六千名以上の日本人やまた太

平洋の島の人たちが核実験に遭遇したことになりました。死の灰は今でも不気味に放射能を出しつづけています。

その日は、当時の第五福竜丸の乗組員の一人であった大石又七さんともお会いでき、お話を伺うことができました。焼津を離れ東京に出て十五年間は何も言わなかった大石さんが、肝障害などでゆっくりと殺されていった仲間たちを思うと、もう黙っていられないと平和の語り部として体験を多くの子どもや大人たちに伝えていくことに感銘をうけました。事件を風化させないために築地にマグロ塚を作る運動や東京都の平和祈念資料館に第五福竜丸やビキニ水爆実験に関するコーナーを設置させることの重要性和意義を強く感じました。大石さんがおっしゃったように、若い人たちに事件を引き継いでいかなければと思います。

第五福竜丸のエンジンも返ってきます。広島・長崎・ビキニの痛切な体験をもつ日本国民として、全世界に平和を発信する原点の第五福竜丸展示館が永遠に存在しつづけることを願ってやみません。

(東京学習会議理事)